

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和元年 7 月

事業所名 Oasis

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	・療育内容によっては、座る位置、道具の使い方を考えている。 ・活動に応じて、机の有無などを確認しながら、必要のない時は移動させ、常に活動しやすいスペースの確保に努めている。 ・療育によっては、地区センターなどを利用している。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	・特に支援が必要な場合は、その担当を決めたり、二人体制になったり事前に打ち合わせを怠らないように努めている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	・毎日学校への送迎時や保護者からの連絡情報などを聞き取る時間を確保しながら次の支援に繋がるようにしている。 ・各スタッフとの情報共有にも心がけ、ケース会議に繋げている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	・6月に保護者に配布し、回収、検討会を持ち、次の取組や支援への共通理解を図る。 ・送迎の際に直接話をして、保護者の考えや気持ちに耳を傾けるよう努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	・「オアシスだより」、ブログの更新、HP上で公開している。 ・常に事業所での様子、活動内容などを公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	・市内の研修会や講演会等に積極的に参加するようにしている。 ・外部で行われている研修には、できるだけ参加するようにしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	・関係機関連絡支援会議や事業所内相談支援会議棟での保護者や学校関係者との話し合いで情報共有しながら作成するようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	・全員で支援計画の手立てを加味しながら話し合うようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	・その時期、その時の実態に即した内容になるように吟味するようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	・長期休暇には平日ではできない体験ができるように、事前に打ち合わせを重ねている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	・児童一人一人を多面的に見られるように、いろいろな面から情報を得られるように心がけている。 ・合理的配慮ができるように、本人主体の観点で作成するようにしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	・必ず全員でできるように時間を確保している。 ・その日その日の子どもの年齢や個人差などを考慮して、活動内容もグループ分けをして、そのグループに合わせ、レベルアップしたものを計画するよう心がけている。 ・その日、担当になった職員を中心に活動内容の把握には努めている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	・日々の活動日誌の充実をはかっている。 ・話し合ったことや聞いてきた情報を共有するようにしている。 ・事業所に戻ってきた時に、保護者とのやり取りの中で伝えたいことなどがあれば、共有している。支援の振り返りは、活動日程にて記録している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	・日々の記録は活動中に取りよう努めている。支援の検証・改善となると、その点では十分とはいえない。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	

関係機関 や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	0	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	0	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	2	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	0	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	6	0	・送迎の際に常に保護者の話に耳を傾け、電話相談に応じたり、必要があれば直接面接して支援する機会も設けている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	0	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	・常時心がけている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	・適時家庭連携の時間を取ったり、事業所内相談支援会議を行ったりしながら、個別に保護者との話し合いの時間を持っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0	・6月25日に保護者会を開催。 ・年に一度保護者会を開き、意見交流、相談などができる場を設けている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	・定期的に発行している。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	・お互いに留意し合っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	1	・他の事業所との交流。 ・地域に密着した体験活動(スーパーマーケット、ケーブルテレビ、消防署、地区センター等の見学を利用)

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	・いろいろなパターンで実施するようにしている。 ・今後はもっと保護者への発信を進める。 ・定期的に災害の恐ろしさ、身を守ることの大切さ、その方法を話し、発生を想定した訓練を実施している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	・定期的に年間計画に沿って進めているが、いろいろな場面設定のもと即時支援も行うようにしている。 ・避難場所、経路、避難のルールの確認などを必ず行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	・生命に関わる事、安全確保に関する内容で記載し、個別には具体的な場面があれば話し合って了解をとっている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	・作成した事例集に目を通し、共有している。